

## ロングまが玉のスパイラルロープネックレス ~ランチ~

ロングまが玉の形状を生かした、動きのあるデザイン。簡単なのに手が込んでいるように見え、優しい色合いが大人の装いにもマッチします。フロント部分のスパイラルロープと、サイドのフラットスパイラルで、スパイラルのテクニックをしっかりと学べます。

### 豆知識

### お教室のトークに使える！

#### [ テクニック ]

- \* **スパイラルロープ**……スパイラルは英語で「螺旋(らせん)」の意味。芯となるビーズの外側に、1段ずつずらしてビーズを巻きつけ、美しい螺旋状に編む技法です。ビーズの数やサイズを変えることで、様々な表情が生まれます。芯ビーズの数を増やすことで螺旋が緩やかになり、平らに見えるものをフラットスパイラルと言います。
- \* **ストリング**……本作品のように、ビーズを一行に通すもの・またはその工程をストリングと言います。ストリングは英語で、「一続きのもの」「一連のもの」「一行に並んだもの」という意味です。シンプルですが、ビーズの間隙を作らずしなやかに作るには、糸の引き締め具や留め具の仕上げをていねいに行う必要があります。

#### [ 道具&素材 ]

- \* **針**……ビーズ針：10号 または 縫い針：きぬえりしめ
- \* **糸**……「ワイルドファイアー 細/白 (パステル用)・緑 (ブラウン用)」を推奨します。ワイルドファイアーは、表面を熱処理した合成繊維の糸です。ハリがあり強靱で、なめらかで撚りが少ないため、もつれや絡みが起こりにくい特長を持ちます。いっぽうで、結び目がほどけやすいので、固結びはしっかり行いましょう。また、カットするときはぴんと張った状態で、切れ味の良い手芸用のはさみで切りましょう。
- \* **スワロフスキー・クリスタル**……スワロフスキー社製のクリスタルガラスビーズです。スワロフスキー社は1895年オーストリア・チロル地方で創業。独自のクリスタルガラス製造と高精度なカット技術を有し、通常のクリスタルガラスよりも透明度が高く、輝きの強いビーズを製造しています。
- \* **スクエアビーズ**……立方体のビーズで、キューブビーズとも呼ばれます。ビーズは丸みを帯びたものが多いので、角ばったスクエアビーズを用いると、作品のアクセントになります。
- \* **ロングまが玉ビーズ**……通常のみが玉ビーズは涙滴型ですが、ロングまが玉ビーズは円筒を斜め切りしたような形。花びらや葉のようにも見え、作品に動きや華やかさが加わります。
- \* **プラスチックビーズ**……樹脂ならではの豊富なカラーバリエーションがあり、軽量なので、カラフルな作品やボリュームを出したい作品に適しています。本作品では、天然石のようなナチュラル感のあるイタリア・フィレンツェのアクセサリパーツメーカー Micro 社のアクリルビーズを用いています。
- \* **ピカソ・コーティング**……「ブラウン」のロングまが玉と丸大ビーズに施されている表面加工です。大理石のようなまだら模様をつけ、泥やサビをまとったような風合いを出しています。様々なビーズに用いられているので、落ち着きや、アンティーク風のイメージを加えたい時に用いると良いでしょう。

## サイズ調整方法

- \*長くする……レシピ3-①で、丸大3個・スクエアビーズ1個を12回通すところの回数を左右均等に増やす。
- \*短くする……上記を左右均等に減らす。

## デモポイント

### ~ここを実演して見せましょう~

- \*道具の使い方や基本動作をひとつお見せする（糸の通し方、ビーズストッパーの使い方、ビーズの拾い方、糸の引き方など）。『ビーズステッチテクニック BOOK』第2章参照
- \*スパイラルロープの基本の編み方。レシピ：1-①~③図①~③
  - ・芯ビーズ（丸大ビーズ4個）を通して、ビーズストッパーのきわに寄せ「この4個の丸大が芯ビーズです」と説明する。
  - ・外側ビーズを針に通し、芯ビーズを下から4個拾って引き締め、外側ビーズを左側へ倒して見せる。『ビーズステッチテクニック BOOK』P37 参照
  - ・芯ビーズを1つ通して、編み地のきわまでしっかり寄せる。
  - ・外側ビーズを針に通し、芯ビーズの上から4個を、下から拾う。このとき、さきほど左側に倒した外側ビーズを左手親指で左側に押さえつつ、右側から芯ビーズを拾う。『ビーズステッチテクニック BOOK』P37 参照
  - ・一連の編み方を、何度か繰り返し見せる。
- \*フラットスパイラルの編み方。レシピ：2-①~③図⑤~⑥
  - ・あらかじめ丸大・スワロ・丸大を1個ずつ通したデモ用の編み地を用意しておく（作品のフラットスパイラルの編み始めに近い状態にしておく）。
  - ・芯ビーズ（丸大ビーズ4個）を通して、デモ用の編み地のきわに寄せ「この4個の丸大が芯ビーズです」と説明する。
  - ・外側ビーズを通し、芯ビーズを下から拾う。編み地のきわに寄せて、隙間が空かないように引き締める。
  - ・芯ビーズを2個通して、編み地のきわへ寄せる。スパイラルロープでは1個だが、フラットスパイラルでは2個であることを強調する。
  - ・外側ビーズのロングまが玉の段と、スクエアの段を交互にすることを説明する。
  - ・編み上げた時、正面からはフラットに見えるが、編み地をねじると螺旋状になるところを見せる。
- \*玉留め・固結びの方法。『ビーズステッチテクニック BOOK』P21、P22 参照

チェックポイント

~上手に出来ていたらほめてあげましょう!~

- \*スパイラルロープが正しく編めているか? (隙間がないか・正しく螺旋状になっているか)
- \*レシピ3-①で、ストリング部分(丸大とスクエアビーズを一列に通した部分)編み戻るときの引き締めがきつすぎないか? ※きつすぎるとしなやかさが失われます。適度な力加減を指導しましょう。
- \*糸始末は適切か?

指導ポイント

~心がけることで「先生力」UP!~

- \*はじめに、レシピの【スタートの位置と全体図】を見ながら、どこからどのように作っていくのか、製作の流れを説明しましょう。
- \*スパイラルロープを35段編むときには、あらかじめロングまが玉を35個数えておくと、編みすぎることがありません。
- \*芯ビーズは針を持つ手の側から芯ビーズを拾うので、2段目以降は、前段の外側ビーズが動かないよう、編み地を持つ手の親指で外側ビーズを押さえておきます。『ビーズステッチテクニック BOOK』P37 参照
- \*外側ビーズを倒すときは、編み地を持つ手の親指で、親指側から手の甲側へ回します。『ビーズステッチテクニック BOOK』P37 参照
- \*ロングまが玉は、通す方向によって傾きが違います(画像参照)。本作品ではランダムに針に通すことで、枝(ランチ)の動きのあるデザインになります。※下図参照



同じ向きに通したもの



向きを交互に通したもの(本作ではランダムでもよい)

- \*芯ビーズを拾いにくい時は、ビーズとビーズの間隙に沿って針を当てて押し、針先の向きを変えるとビーズの穴に入りやすくなります。『ビーズステッチテクニック BOOK』P37 参照
  - \*レシピ:2-①~③では、フラットスパイラルを1段編んだら、1段目のビーズを直前の丸大に寄せて糸を引き締め、隙間が空かないように気をつけましょう。
  - \*フラットスパイラルは、編み地をねじって螺旋状になれば、正しく編めています。
  - \*この作品はシンメトリーなので、留め具とループは左右どちら側の糸でつけても構いません。レシピ:3-④、⑥
- ( \*A4の紙(210×297cm)などで、手軽に糸の長さを計れることを紹介してみましよう。なお、両手をいっぱい伸ばした長さは、自分の身長とほぼ同じです。長く測りたい時に覚えておくと便利です。 )